



# 隼人族の森を渡る風

上床 利秋

連載エッセイ 第111回

<https://douzou.jp/>

若き友あり、桜の季節に遠方より来たる。

嬉しいことに東京から小学校三年生の可愛いお客様が家族と共に霧島市のアトリエを訪問してくれた。

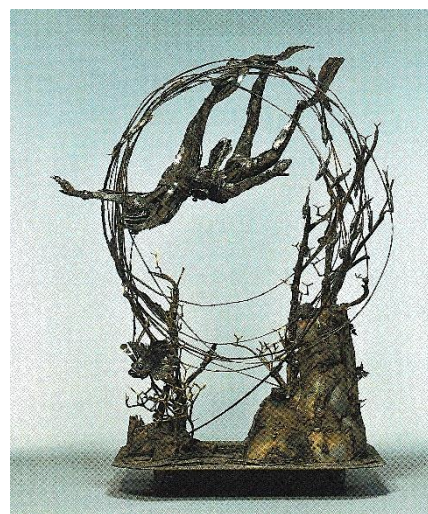
昨年秋に宮山治士君は<sup>はると</sup>おばあちゃんと一緒に東京六本木の日展会場を訪れた時に、最も印象に残ったのが私の作品「海へ」だったそう。少年は自宅に帰ってからスケッチブックに何も見ないでその作品を思い出して描いたという鉛筆画を見せてくれた。私はほのぼのとした喜びを感じた。

日展事務局の「作家に手紙を書こう」という企画がきっかけで、宮山君と知り合えた。その後のホームページからの約束で今回の出会いが実現したのだけれど、きっとご家族にとっても良い思い出になったのではないかと思う事だった。勿論、私にとっても作家として大いに励みになった。

2026年3月



令和8年3月28日 杉アトリエにて



著者作 第118回日展出品作 「海へ」 / 鉄



お昼は鹿児島名物「まわるそうめん流し」を霧島市で一緒に味わった。



宮山治士くん作 「海へ」の記憶 / 鉛筆